

大教スポーツ

学長杯決定

平成30年度

剣道部

平成30年度学長杯受賞

体育会に所属し年間を通して最も卓越した成績を収めた運動部へ贈られる学長杯。そして競技生活を通じて最優秀の活動を果たした個人に贈られる学長杯個人賞。今年は団体および個人ともに剣道部が目覚ましい活躍を果たして団体・個人をいずれも獲得した。大教スポーツでは早速その強さの秘訣を求めてお話を伺った。



和気あいあいと楽しんだりしています。そんなメリハリのついた雰囲気は剣道部の魅力であると思います。」

稽古後、顧問の太田順康先生にお話を伺った。「スポーツで成績をあげることはもちろん大切だが、それ以上に頑張ったことを大切にしてあげたい。」と剣道、そして部活動に対する思いを語る。また剣道部員を含む体育会所属学生に対しては「試合、稽古、出会いなど全ての一期一会を大切にしてほしい。」

こもった大声が飛び交い、竹刀を振りかざす剣士たちがぶつかり合う道場はすさまじい迫力と熱気に満ち溢れていた。現主将である嶋将輝さん（スポーツ専攻3年生）は剣道部の魅力をこう語る。「普段は基本を大切に、短い時間で内容の充実した稽古を行っている。稽古中はどんなメニューであっても厳しく臨み、自分たちで考えて練習を行います。稽古後は一緒にご飯を食べに行ったり、部活以外のいろんな活動を仲間として

平成30年度全日本学生剣道優勝大会が10月28日（男子）、11月11日（女子）に開催された。本学剣道部は女子団体ベスト8（敢闘賞受賞）、男子団体2回戦進出という戦果を残し、本年度学長杯団体賞を受賞した。その強さを探るべく、剣道部の稽古に伺った。

気温7℃という酷暑の中、朝6時から裸足の剣士たちが寒稽古に励む。普段より一段と厳しい鍛錬を集中的に行う冬季恒例の稽古だ。気合の

最後にマネージャーである森菜南子さん（健康生活科学専攻3年生）、紺谷美優さん（社会科教育専攻3年生）にもお話を伺った。「練習中はしんどいこともありますが、私たちよりも選手の方がもっとしんどいはずです。ですから練習



剣道部

4回生

学長杯個人賞

小角春奈

選手

平成30年度全日本女子学生剣道優勝大会にて仲間たち、顧問の太田順康先生（右上）と（最前列中央、両手でピースが小角春奈選手）



今年度の全日本女子学生剣道東西対抗試合優秀選手賞獲得、さらに大阪教育大学剣道部の一員として全日本女子学生剣道優勝大会への出場など大車輪の活躍を見せた小角春奈さん（スポーツ専攻4年生）が学長杯個人賞を獲得した。卒業を控えている、4年間の活動を振り返って剣道部への思いを語っていただいた。

何度も挑んだ全日本学生剣道優勝大会

「1回生の時から試合には出させてもらっていて全日（全日本女子学生剣道優勝大会）には出場していましたが、いつも1回戦で敗退していたので今年度は上位に食い込むことができて良かったです。」

今年、大きな成果を挙げて学長杯を獲得した剣道部だが、その背景には選手達の並々ならぬ努力はもうろんのこと、顧問である太田先生の指導やマネージャーによるサポートがあったからこそと言える。来年度、剣道部はどんな勝利の報をわれわれに伝えてくれるのだろうか。

今年度の全日本女子学生剣道優勝大会にて大きな貢献を果たした小角さんだが、彼女には本意な試合結果をバネにしてさらに研鑽を積み、期する目標を達成する強さがあった。「今年の目標は関西女子学生剣道優勝大会での優勝、そして全日本女子学生剣道優勝大会での上位入賞が目標でした。しかし、関西女子学生剣道優勝大会でバネに変えて

悔しさを

悔しさをバネに変えて

今年度の全日本女子学生剣道優勝大会にて大残った当時を思い出しながらも、最終的には目標を達成した小角さんの顔からは充実感や達成感を感じることができた。

関西の代表ではなく、大阪教育大学の一員として

大阪教育大学の全上位入賞に大きく貢献した小角さんは学生剣道界からもその実力が高く評価され、全日本女子学生剣道東西対抗試合でも優秀選手賞に選出されている。そのことに関する自身の思いを語っていた

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大教スポーツ

平成31年3月23日(土) 7号

発行 大阪教育大学体育会
編集長 林洋輔(保健体育講座講師)
編集員 宇和川弘基(陸上競技部)/竹田祐太(卓球部)/吉井彩香(合気道部)/中原渉(卓球部)/土居史佳(合気道部)/鉾立政公(ラグビー部)/西本祐輝(男子ラクロス部)/浦上喜帆(硬式庭球部)/島瀬湧太(男子ラクロス部)/米田湧泉(民族舞踊部)/要南帆(民族舞踊部)/山内湧貴(山岳部)/石原優(山岳部)

2面	今年度活躍した団体(バトミントン部) 今年度の体育会成績一覧
3面	注目所属団体・活動紹介(山岳部 民族舞踊部) 学長杯受賞者・団体一覧
4面	今年度活躍した団体(柔道部) 我が体育会(第7回)土井秀和 特任教授 編集後記

いた。「選ばれるのも数人で限られた人数であり、関西の代表として西軍の一人に選ばれましたが、大阪教育大学の代表として出場したと思ってあります。そんな中、優秀選手に選ばれたので良かったです。」と笑顔で語ってくれた。

取材を終えて

学長杯個人賞は当該年度に最も活躍したと認められる学生競技者個人に贈られる賞だが、小角さんは単に個人として輝かしい成績を残したばかりではなく、チームの一員である自覚も忘れず、4年間で戦い抜いてきた。女性剣士としてのあり方、そして後進の模範としての小角さんの努力の足跡は学長杯個人賞という栄誉に相応しい輝きを放つ。小角さんは本年三月で大阪教育大学を卒業されるが、新天地でもその活躍を見せてくれるはずだ。

男女共に上昇気流!バドミントン部

バドミントン部男女ともに好成績!

近年、優秀な成績を数多く残している大阪教育大学体育会。昨年度も多くの部活動が素晴らしい成績を残したが、今年度もまた、輝きを放つ部活動がある。第59回全国教育系大学バドミントン選手権大会(以下「全教」)で男女アベック優勝を果たし、平成30年度関西学生バドミントン春季リーグ大会でも男子が2部昇格を達成して勢いに乗るバドミントン部。その男子主将である大田僚平さん(国語教育専攻3回生)と女子主将である谷口悠夏さん(健康生活科学専攻3回生)にお話を伺った。

全教優勝、男子2部昇格を果たして

「全教については、男子は久しぶりの優勝であり、先輩方の悔しさを見てきた分、そのうれしさはとても大きかった。また春季リーグでは、女子はもとより2部で男子も1回生の活躍もあり2部に昇格でき、やっと男女揃って2部のチームとなることができて良かったです。」(大田さん)。

楽しさも兼ね備えるバドミントン部

バドミントン部の魅力は競技成績ばかりでは「バドミントンを始めた

のは小学校の習い事を通じてだったのですが、大学でもバドミントンを続けているのは、上手になるにつれてできるプレーの増えることが楽しいから。バドミントンの試合をより高いレベルでできるようになり、試合で勝つことが嬉しくて大学でも続けています」。(谷口さん)。「大学ではあまり続けるつもりはな

かったのですが、一度「バドミントン部の活動を」見学に行った際に、指導する先生のいないこともあって部員の人たちで練習メニューを考えながら楽しい雰囲気練習しているところを見て、そのことがチーム一体という感じを受け、そこに惹かれて入学しました。」(大田さん)。

競技力の高い部員だけが集まって楽しんでいるのではなく、部員全員がそれぞれの競技水準に合わせて互いに励まし合いながら努力し、試合での勝利を目指せる練習環境も整っていることが大きな魅力と言えるだろう。「女子全教団体4連覇」、「チームとしてインカレに出場」を目標に掲げ、実力と楽しさの双方を兼ね備えた男女バドミントン部のさらなる躍進に期待したい。



全教にて男女ともに「勝利報告」

平成30年度 主な成績・活動一覧

部活名	大会名	成績
男子バスケットボール部	近畿地区国立大学体育大会	準優勝
女子バスケットボール部	関西女子学生リーグ	2部10位
男子バレーボール部	関西学生バレーボール春季リーグ	2部昇格
女子バレーボール部	近畿地区国立大学体育大会	優勝
男子ハンドボール部	関西学生ハンドボール秋季リーグ	2部昇格
女子ハンドボール部	全日本学生ハンドボール選手権大会	出場
ラグビー部	関西大学ラグビーBリーグ	6位
アメリカンフットボール部	関西学生アメリカンフットボール秋季リーグ戦	3部1位
硬式野球部	近畿学生春季リーグ	2部2位
準硬式野球部	阪神六大学準硬式野球連盟秋季リーグ戦	4位
男子サッカー部	関西学生サッカーリーグ2部Aリーグ	総合5位
女子サッカー部	関西学生女子サッカー春季リーグ	2部4位
硬式庭球部	全日本学生テニス選手権大会	最高成績者女子シングルベスト32
ソフトテニス部	関西学生ソフトテニス春季リーグ戦	男子2部5位
卓球部	近畿地区国立大学体育大会	女子3位
剣道部	全日本学生剣道優勝大会、全日本女子学生剣道優勝大会	男子2回戦進出、女子ベスト8
柔道部	善意本学生柔道体重別団体優勝大会	初出場
合気道部	特になし	
空手道部	特になし	
体操競技部	近畿地区国立大学体育大会	女子団体2位
陸上競技部	近畿地区国立大学体育大会	男子総合優勝、女子総合優勝
バドミントン部	春季リーグ戦	男子2部昇格
水上競技部	日本学生選手権	13名出場1名入賞
スキー部	全日本学生スキー選手権大会	最高成績者男子3部5kmフリー 3位
民族舞踊部	特になし	
モダンダンス部	特になし	
男子ラクロス部	関西学生ラクロスリーグ戦	1部昇格
女子ラクロス部	関西学生ラクロスリーグ戦	1部4位
弓道部	特になし	
L.S.B.	特になし	
山岳部	特になし	
フィギュアスケート部	西日本学生フィギュアスケート選手権大会	最高成績者C級女子6位

「山の覇者」へ第一歩! 山岳部!

大阪教育大学の体育会公認団体として活動している山岳部について、読者はどのようなことをご存知だろうか。山岳部は長い間その活動を休止していたものの、約四年前に本格的に活動を再開したばかりである。そこで大教スポーツでは山岳部の活動についてより詳細に明らかにするため、現部長である山内湧貴さん（教育心理学専攻2回生）に近年の活動と山岳

再始動した山岳部

部とはそもそもどんな活動を行っているのかについてお伺いした。

現在の山岳部は山内さんをはじめ、3回生3名、2回生1名、1回生7名の計11名で構成されており、部員は少数ながらもお互いに協力し合いつつ活動を続けている。「今年度は例年に比べて一回生が多数入部してくれ、今後はこれまでよりも活動の質や幅を向上させ、新入部員をさらに獲得するとともに、これからの山岳部自体のスケールをさらに大きくしていければ」（山内さん）と語る。

また、山岳部の主な活

動のひとつが毎月一度行われる定例登山だ。主に関西圏の山を挑戦の対象とし、第三日曜日に実施されている。また、二〇一八年度の活動では生駒山、交野山、六甲山などで定例登山が行われた。前主将の石原優さん（自然研究専攻3回生）は「部員個人のペースに配慮し、それに合わせた活動を行っている。登山に挑戦したことは無いが、ハイキングには興味があるといった人でもぜひ一度参加してみてほしい」と語る。来年の山岳部の活動について山内さんは「今年は予定していた夏合宿での富士山登山が天



六甲山にて登頂を果たし笑顔の山岳部の皆さん

候不良により中止となっていました。なんとしても来年こそはリベンジを果たしたい」と語る。現在、山岳部では大会や公

式戦などには出場しておらず、部員も登山未経験者が大部分を占める状況ではあるものの、その継続的な活動を通して山岳

部は徐々に活動を活発化させている。今後における山岳部のさらなる発展と飛躍に注目したい。

スポーツ×文化＝民族舞踊部!



様々な衣装に身を包む民族舞踊部の皆さん

スポーツが魅せる芸術、民族舞踊部

大阪教育大学体育会には球技や陸上競技、あるいは体操など一般的なスポーツのイメージとは一味違った魅力を持つ部活動が存在する。本学体育会所属団体である民族舞踊部は、世界中の様々な特色ある踊りの習得と演示を主な活動として

いる。取り扱う曲はイスラエル地方に伝わる「サークルダンス」やブルガリア地方に伝わる踊り、またロシアに古くから伝わるコサックダンスはじめ、取り上げる舞踊の数は優に百曲を超える。それらの踊りの伝わる国も様々なら、長い歴史のもとで踊り継がれてきたものも多く見られる。所属部員たちは大学4年間を通じて世界のさまざまな舞踊の習得に取り組み、実際に自分たちで踊る中で各国の文化や歴史に触れることができる。部員の一人である井上七海さん（芸術表現専攻2回生）によれば、

「ブルガリアやハンガリーの踊りのように、急速にして力強い踊りを踊る時は体育会の部活動であること強く実感する」と語る。世界各国の文化に触れる観点からみればいかにも文化系部活動のようにも思われるが、豊富な運動量の確保はまさに運動部活動そのもの。まるで運動部と文化部の特長を融合させたような活動に民族舞踊部ならではの魅力がある。また、全国各地にある民族舞踊関連の部活動が集まるパーティーに参加することで交友関係が一層広がることも大きな魅力といえる。このパーティーは

大学の学生だけではなくOB、OGも集まるなかで発表会が行なわれるもので、民族舞踊の根強い人気をうかがわせるものでもあるだろう。ここで、民族舞踊部に入学してみても感想を今年入部した尾崎栞さん（芸術表現専攻1回生）に伺ってみた。『ダンス自体はやったことがなかったです。運動は好きだけど、体育会の雰囲気は苦手で...』。尾崎さんは元々ロシアのコサックダンスに関心を持っていた1回生だ。激しい身体活動を日々行うイメージが体育会には付き物だが、尾崎さんによれば民

族舞踊部の活動は週1回のみで参加を義務付けるプレッシャーもなく、ゆるやかにのびやかに楽しく活動できるところが魅力であるとのこと。今は習得を課題とする一曲一曲を踊れるように上達しつつある事にやりがいを感じているようだ。「来年度は刺繍がガッツリ入った服を作ってみたいし、衣装だけでなくその国の化粧にも挑戦してみたい」（尾崎さん）。「体を動かすのは好きだけど、運動系はちょっと...」、という方はぜひ、魅力たっぷりの民族舞踊部の活動に目を向けてはいかがでしょうか。

平成30年度体育会学長杯受賞者・団体一覧

タイトル	受賞者・団体	主な選考理由
学長杯(団体)	剣道部	女子:・全日本女子学生剣道優勝大会ベスト8(敢闘賞) 男子:・全日本学生剣道優勝大会2回戦進出 ・関西学生剣道優勝大会3位
学長杯(個人)	小角 春奈(4/スポーツ)(剣道部)	・全日本女子学生剣道東西対抗試合に関西代表として出場し優秀選手賞を受賞他
殊勲賞	水上競技部	・日本学生選手権大会13名出場1種目入賞 ・全国国公立大学選手権 男子総合5位、女子総合5位
	中原 優希(4/スポーツ)(水上競技部)	・全国国公立大学選手権200mバタフライ3位、200m個人メドレー3位 ・日本選手権200mバタフライ39位
敢闘賞	男子ラクロス部	・第29回関西学生ラクロスリーグ戦2部1位 1部昇格
	柔道部	・全日本学生柔道体重別団体優勝大会男子団体初出場
体育会会長杯	井本 慶(4/中体)(女子ラクロス部)	・関西学生ラクロスリーグ戦1部リーグベスト12(MF)選出
体育会顧問奨励賞	水口 愛菜(1/健康科学)(フィギュアスケート部)	・関西学生氷上競技選手権大会 F部競技B級女子4位 ・西日本学生フィギュアスケート選手権大会C級女子6位
	出口 琢也(3/スポーツ)(男子バスケットボール部)	・関西学生バスケットボールリーグ1部アシスト10位 ・全国教育系大学対校選手権大会 アシスト1位
体育会特別賞	赤嶺 梨緒(3/スポーツ)(水上競技部)	・日本学生選手権800m自由形7位 ・日本選手権800m自由形13位、1500m自由形6位

前進あるのみ!柔道部奮闘!!

創部以来初の団体で 全国大会に出場



辻本晴さん(教員養成課程技術教育専攻4回生・前列左から3人目)

平成30年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会が10月20(土)〜21(日)にかけて兵庫県のベイコム総合体育館で開催され、本学柔道部が創部以来、初めて男子の団体戦で全国大会に出場した。山下隼弥さん(スポーツ専攻2回生)が関西学生柔道体重別選手権大会でベスト8に入ったことでチームにポイントが入り、これによって全日本学生柔道体重別団体優勝大会の出場権を獲得した。全日本学生柔道体重別団体優勝大会では1回戦、1対6で國學院大

学に敗戦したものの、主将である辻本晴さん(技術教育専攻4回生)は「初めての団体戦でトップレベルの選手達と戦い、全国大会常連大学の実力を思い知った。しかし、一方で、試合した7人のうち1人だけ勝つことができ、天と地ほどの実力差があるわけではないと思った。」と振り返った。また、創部以来初の出場権を獲得したことについて、「正直、出場できるとは思っていなかった。出場が決まった瞬間は戸惑ったが、同時に全国クラスのチームに

なっただという自覚と追われる立場になる覚悟を持つことができた。そしてチーム一丸となって練習してきた努力がやっと一つの形になった。」(辻本さん)と述べた。

初めての
全国大会を経て

全国大会に出場するにあたって、チームどのような目標を立て、練習を行ってきたかという質問に対しては「全国大会にただ出場するだけではなく、結果を出すことをチームで意識していた。練習では短い練習時間の中、どれだけ質の高い練習をするか考えて行なっていた。」(辻本さん)と語った。また今後の目標について、新主将の小池優真さん(技術教育専攻2回生)は「どんなに小さな大会でも勝つことにこだわり、再び全国の舞台に立ち、チームで一勝することが目標です。」と語った。全国大会の出場権を得る決手となった上記の山下さん以外にも柔道部には可能性を秘めた選手が多数揃っている。男子のみならず女子も選手は3人と少人数ながら、男子に負けずと日々練習を行なっているそうだ。今後チーム全体で切磋琢磨しあい、全国大会でも他大学に匹敵するチームを作りたい。上げていくことを期待したい。



土井秀和先生

現役生に贈る言葉 大阪教育大学 教育協働学科スポーツ科学専攻 特任教授 先生 土井秀和

我が体育会 第7回

名将・土井秀和の足跡
〜日本一へ向けた歩み〜

東京教育大学(現筑波大学)をご卒業後、大阪教育大学にご着任された経緯についてお聞かせください。

もともとは東京教育大学の大学院を修了し、筑波大学と日本女子体育大学でハンドボールを指導していました。日本女子体育大学で指導に携わって2年目の時、大阪教育大学からハンドボールを指導できる教員を探していると日本女子体育大学に誘いがあり、日本女子体育大学に残るか、それとも大阪教育大学でハンドボールを指導するのか悩みましたが、最終的には自分が大阪出身だったことが決定打となり、大阪教育大学でハンドボールを教えることを選んだのがきっかけです。

女子ハンドボール部は学生界屈指の強豪として広く周知されていますが、それに至る道のり

について伺います。

もちろんたくさん苦労があり、やっと全国常連のチームになったの思いです。赴任当初は、なかなか勝てるようなモチベーションの維持や練習内容ではなかった。その当時から強豪であり昨年の全日本大学選手権大会でも優勝した大阪体育大学や同じく現在に至るまで全日本大学選手権大会常連校の武庫川女子大学に勝利したこともあるものの、関西の4位や7位、8位あたりをうろろしていた。

なかなか充実した成績の残せなかった当時の状況のなか、ターニングポイントとしてどのようなことが挙げられますか？

一つの転機は推薦入試が始まることに、自分がナショナルチーム(日本代表チーム)のコーチを務めていたこともあって、優秀な選手が多数入学してくれた。それによって、チームの雰囲気や質の刺激が加わり、選手の練習意欲なども変わってきて関西の1部リーグで優勝できるほどに成績は順調に上昇した。しかし、一般人試で入

「温故知新」をテーマに本学体育会とゆかりの深い先輩方にインタビューする本企画。第7回となる今回は、本学女子ハンドボール部の監督として2010年の全日本学生ハンドボール選手権大会優勝を初め、数々の輝かしい成績を収めてこれられた土井秀和先生(教育協働学科スポーツ科学講座特任教授)にお話を伺いました！

学した学生と推薦入試により入学した学生とのあいだで融和ムードが作られず、チーム全体が停滞期に陥ってしまうこともあった。

どのようにしてその停滞期を打破されたのでしょうか？

もちろん、長い時間をかけて部員が互いに悩みや努力を理解し合って歩み寄ることができ、選手一人一人が自分のやるべきことを考えられるようになることで、ようやくチームとしてまとまることになった。それにより私が試合の中でこうしてほしいと考えているプレーと、選手が実際に実行したプレーがほとんど一致するようになり、納得のいく良い試合ができるようになっていった。

そして、2003年から2012年までの10年間、全日本インカレ(全日本学生選手権)ベスト4以上の成績を残し続けた。特に2010年には初の同インカレ優勝を果たし、2012年にも同じく優勝を遂げることで、現在の「強い」女子ハンドボール部に至る軌跡が描かれた。

最後に大阪教育大学の体育会に所属する学生に激励の一言をいただきますか？

自分が決めたことをあきらめないこと。そして、自分が今まで続けてきたことに対して価値を見いだすこと。

時間やお金、その他にもたくさんものを費やしてまで今のスポーツをやっているのだから、その価値を今一度再認識して、あきらめず、より一層頑張ってください。

また、第7号も保健体育講座講師である林先生に取材及び編集の進め方、技術面での指導や多くのフォローをいただき、深く感謝しています。まだまだ改善の余地が多々ある大教スポーツですが、来年度はさらにグレードアップできるよう私も参画していきます。最後になりましたが、今号の編集、取材に関わっていただいたすべての方々にこの場を借りて心より厚く御礼申し上げます。

編集 後記

大教スポーツ第7号の編集主任を拝命しました保健体育専攻3回生の宇和川弘基と申します。今号を作成する際に多くの困難に直面し、そのたびに編集員達や他の体育会の学生にも助力いただくことで本学体育会のつながりの強さを実感いたしました。本年度は進化を遂げた部活動や活動が活発化させた部活動が多く見られたため、どの団体を記事に取り上げるか非常に迷いました。

また、第7号も保健体育講座講師である林先生に取材及び編集の進め方、技術面での指導や多くのフォローをいただき、深く感謝しています。まだまだ改善の余地が多々ある大教スポーツですが、来年度はさらにグレードアップできるよう私も参画していきます。最後になりましたが、今号の編集、取材に関わっていただいたすべての方々にこの場を借りて心より厚く御礼申し上げます。

保健体育専攻3回生 宇和川弘基